

環境のことを、 自分のこととして考えたい。

6月は「環境月間」
6月5日は「環境の日」

国連は6月5日を「世界環境デー」と定めています。日本がセネガルと共同で「国連人間環境会議」にて、環境保護のために制定するよう呼びかけたことがきっかけです。

さらに日本は6月5日を「環境の日」、6月の一か月間を「環境月間」と定めており、環境省、地方自治体、企業などによって、期間中に多くのイベントが開催されています。

環境問題を 自分ごととして

人間活動の影響で、地球環境にさまざまな変化が起きています。主なものとして、

【地球温暖化】地球温暖化が進むと、今までにないレベルの猛暑や大雨などの異常気象が増加するなど自然や暮らしに影響が出ます。
【生物の絶滅】生命が誕生して以来、大量に絶滅する「大絶滅」が5回ありました。
ハワイ大の研究では、既に第6回目に入ったとされ、過去の大絶滅と比べて進行が速く、その主な原因は人間の活動によるものと言われています。

このような問題は、一人の力や一つの国だけでは解決できることではなく、全世界が一つになって問題に取り組んでいく必要があります。

そこで小諸市は2020(令和2)年、「小諸市気候非常事態宣言」を行いました。また2023(令和5)年には環境省から「脱炭素先行地域」に指定され、2050年までに温室効果ガス(CO₂等)排出量を実質ゼロ※とするゼロカーボンシティを目指しています。環境問題というと、後回しに考えてしまいう人が多いかもしれませんが、確かにすぐに目に見えた効果が出ないことも多いです。しかし自分の体の健康管理と同じように、日々の積み重ねにより、地球の「環境健康」は守られています。

6月は環境問題について考え、触れて、取り組むきっかけにしてみませんか。

※実質ゼロとはCO₂等の温室効果ガス発生量から森林などで吸収される量を差し引いた値がゼロになること。



小諸市では、衛生委員やごみ減量アドバイザー等が環境保全やごみ削減のため各地で活躍しています。
(写真は環境学習の様子)



POINT

ゼロカーボンシティ実現に向けて みんなで取り組むこと

■ 省エネと再エネ 温室効果ガスの削減と再生可能エネルギーの導入

- ・省エネ家電への買い替えやEV等の導入に加え、建物への太陽光発電設備や蓄電池の設置、断熱改修などの方法もあります。
- ※小諸市は住宅用太陽光発電パネル・蓄電池、EV等の導入に対して補助金を交付しています。



■ 資源循環 1日に出るごみの量を40g減らす

- ・1人1日当たりのごみの排出量を、40g減らすことを目標にしています。
- 目標値：807g(令和3年度)⇒767g(令和13年度)
- ・ごみを出すときはしっかり分別しましょう。
- 生ごみとプラスチック製容器包装は市指定袋に入れるなど、しっかり分別して燃やさないようにしましょう。



■ 自然との共生

豊かな自然や歴史文化を守り、育み、つなげる

- ・アサマジミ※やハヤザキヒョウタンボク※などの貴重な希少野生動植物が生息できる自然環境を保護しましょう。
- ※小諸市指定保護動植物
- ・地下水の適正な利用に努めましょう。



策定しました!

■ 第3次小諸市環境基本計画

■ 第2次小諸市ごみ処理基本計画

循環型社会を形成し、ゼロカーボンシティを実現するための指針です。一人ひとりが取り組める簡単な事例や小諸市の課題も紹介していますので、下記QRコードからご覧ください。未来のために、できることから実践してみましょう。



環境基本計画



ごみ処理基本計画

環境分野への取り組みは、 一人ひとりの行動が大切です

環境・ごみ問題について、大切なことだと心の中では意識している人は多いと思います。しかし同時に「誰かがやってくれるだろう」と感じている人もいるかもしれません。大切なのは一人ひとりの行動です。“次世代のために”“自分ごととして”行動していきましょう。



長野県地球温暖化防止活動推進員
小諸市環境審議会委員
小諸市ごみ減量アドバイザー
宇野 親治 氏

6/8 (土) 脱炭素シンポジウム

13:30 ~ 16:00

▶会場 小諸市役所 3階
第1・2会議室

- ▶内容
- ・脱炭素先行地域づくり事業説明
 - ・講演
 - ・事業者からの説明
 - ・パネルディスカッション



脱炭素先行地域
長野県小諸市

■ ゼロカーボン推進室